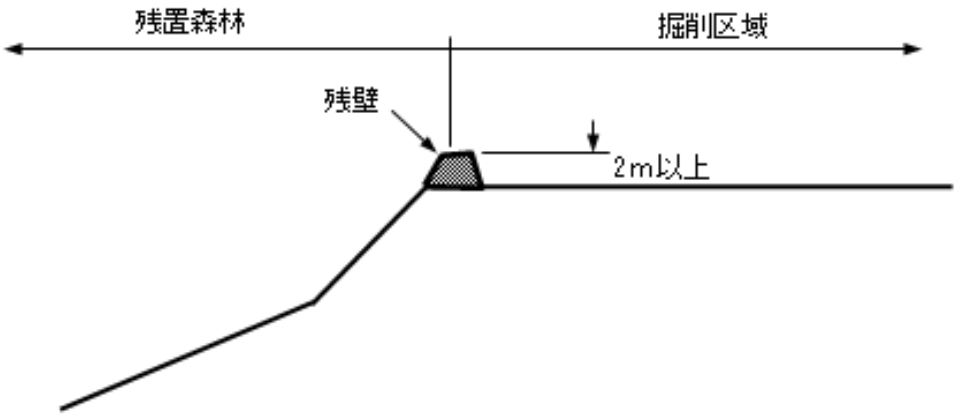


京奈和碎石場拡張事業に係る環境影響評価準備書
 審査部会における意見概要、事業者の見解及び部会報告(案)

1. 大気質

番号	意見者	該当頁	意見	事業者見解	部会報告(案)
			なし		

2. 騒音・振動・低周波音

番号	意見者	該当頁	意見	事業者見解	部会報告(案)
1	成瀬委員	要約書 P. 44 P. 50	環境保全措置の内容の詳細を、図示して、分かりやすく説明してください。発破不使用区域の設定も分かりにくい	<p>1. 発破騒音における環境保全措置</p> <p>①発破不使用区域の設定 発破不使用区域の範囲は、発破振動における環境保全措置と同様に、各予測断面ごとに採掘区域と残置森林の境界からの距離を明示しています。(準備書 P223, P224)</p> <p>②残壁を残しながら発破作業 発破騒音の予測においては、上記の発破不使用区域の設定により、敷地境界において特定工場の規制基準を下回りますが、採取の用に伴う機械の稼働における環境保全措置を踏まえ、さらに環境への影響を回避又は低減するため、残置森林(未掘削区域を含む)と掘削区域の境界に、掘削作業面から高さ2m以上の残壁(切土又は盛土)を設置します。</p>  <p>2. 採取の用に供する機械の稼働における環境保全措置</p> <p>①防音壁又は残壁の設置 防音壁又は残壁の設置は、各予測断面ごとに採掘区域と残置森林の境界からの距離及び高さを明示しています。(準備書 P240~P243)</p> <p>②発破不使用区域(クローラドリルの不使用の設定) 発破不使用区域内では、発破の削孔に用いるクローラドリルは使用しないものとします。</p>	

3. 水質

番号	意見者	該当頁	意見	事業者見解	部会報告（案）
1	藤井委員	P. 318	日常的な降雨時（3mm/h）1回目調査の地点 No. 5 において濁度が 5,700 mg/L と高濃度の値を示しているが、この値は強雨時調査の値よりも高い値を示している。この原因が何か教えて下さい。	No.5 地点については、沈砂池→道路の側溝→No.5 の流れとなっており、砕石場内からの濁り以外に道路及び道路の側溝に溜まった土砂の影響を受けやすい調査地点です。そのため、道路及び道路側溝、場内に堆積した土砂の影響で、日常的な降水量の調査時に高濃度を示したものと考えられます。 なお、平成 28 年 12 月 27 日に 5,700 mg/L と高い値を示したため、砕石場内及び周辺の道路及び側溝の清掃を行うとともに、今後は定期的に行うこととしました。 場内及び側溝の清掃を行った結果、No.5 地点ではピーク時に 1,700 mg/L と濃度の減少がみられました。	
2	藤井委員	P. 336	評価に関して、地点の No. 5 の目標値の設定が現況の 2,900~5,700 mg/L としているが、強雨時調査（20~55 mm/h）を含めた他の調査時には、1,700~2,900 mg/L であり、2,900 mg/L 以下に基準値・目標値を設定する方が良いのではと思います。 雨が降る前に施設内から出た土砂等が側溝にたまり日常降雨でも高濃度の濁水が河川に流出するならば、何かしら施設内からの土砂流出対策が必要ではないかと思えます。	No.5 地点の目標値の設定について、平成 27 年 9 月 8 日の No.5 地点の 2,900 mg/L は、清掃等の保全対策をする前の濃度であるため、ご指摘を踏まえて、目標値は降雨時のピーク時濃度が最も低い 1,700 mg/L に設定します。 また、砕石場内及び周辺の道路及び側溝の清掃を定期的に行い、施設からの土砂が流出しないよう対策を講じることとします。	

4. 動物・植物・生態系

番号	意見者	該当頁	意見	事業者見解	部会報告（案）
			なし		

5. 景観

番号	意見者	該当頁	意見	事業者見解	部会報告（案）
			なし		

6. 廃棄物等

番号	意見者	該当頁	意見	事業者見解	部会報告（案）
1	山田委員	P. 559~ P. 560	脱水ケーキについて、現状と同様、安定化措置等をして利用する、としているが、それを適正と評価するには、現状について、発生量だけでなく、実施している安定化措置方法と利用実績（用途と量）および処分量、その結果、場内に仮置きされる脱水ケーキ（あるいは安定化後の脱水ケーキ）の量は最大どの程度になっているのか、を示す必要があるのでは。	・実施している安定化措置方法…廃土との混合処理（排水性のよい廃土又は廃石と脱水ケーキを適量混合転圧し、締め固める）を基本とし、石灰等改良材との混合処理を補完的に用います。 ・利用実績…現在の脱水ケーキ発生量は 2,700t/月です（P558 参照）。このうち、約 92%の 2,480 t/月を盛土材として販売、約 8%の 220 t/月を場内利用覆土・整地・埋め戻し土として利用しています。 ・場内に仮置きする脱水ケーキ量…安定処理後の場内仮置き量は、最大で月発生量の約 1.7 倍の 4,500 t/月となっています。	